

岩手県金融経済概況（2019年4月）

1. 概況

県内経済は、生産面の一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資も横ばい圏内の動きとなっている。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、28ヵ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2019年3月）は、2ヵ月振りに前年を下回った（前年比△5.0%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2019年3月）は、5ヵ月連続で前年を上回った（前年比+1.5%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2019年4月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+5.1%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2019年4月）は、3ヵ月振りに前年を下回った（前年比△44.3%）。

新設住宅着工戸数（2019年3月）は、4ヵ月振りに前年を上回った（前年比+33.4%）。

—— 持家（前年比△5.6%）は4ヵ月連続で前年を下回った。一方、貸家（同+78.8%）は3ヵ月連続で前年を上回り、分譲（同+78.3%）も2ヵ月連続で前年を上回った。

民間設備投資（短観ベース；2018年度実績見込み、2019年度計画）は、2018年度については前年を1割方下回る（前年比△10.5%）見込み。また、2019年度については概ね前年並みの計画（同+3.5%）となっている。

—— 2018年度（実績見込み）については、製造業ではほぼ前年並みの見込み。また、非製造業では、卸・小売や対個人サービスでの投資一服から前年を2割方下回る計画となっており、全産業では前年を1割方下回る見込み。

—— 2019年度（計画）については、製造業は、新製品対応投資を増加させる先が見られることから、前年を幾分上回る計画。非製造業は、前年並みの計画となっている。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2019年3月）は、3ヵ月振りに前年を下回った（前年比△7.5%）。

3. 生産動向

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2019年2月）は、3ヵ月振りに前月を上回った（前月比+2.9%）。

—— 主要業種別にみると、生産用機械、輸送機械、プラスチック製品が上昇し、食料品、電子部品・デバイス、窯業・土石製品が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2018/10～12月は前期を上回った（2018/1～3月：前期比△4.8%、4～6月：同+5.9%、7～9月：同+0.0%、10～12月：同+3.7%）。

4. 雇用・所得動向

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2019年3月）は、1.45倍と高水準を維持している（2013年5月以降71ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2019年3月）は、前年を上回った（前年比+0.5%；2012年3月以降85ヵ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；2019年2月）は、名目賃金指数（前年比+3.1%）が前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△3.2%）が前年を下回ったため、14ヵ月連続で前年を下回った（同△0.2%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2019年4月）は、光熱・水道費、教養娯楽費等の上昇により、28ヵ月連続で前年を上回った（前年比+0.8%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2019年4月）は、1件、20百万円（前年同月；2件、905百万円）と、落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2019年2月）は、預金は前年を下回った一方、貸出は前年を上回った。貸出約定平均金利（2019年2月）は前月に比べて上昇した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>